

資料 1

第1回富谷市協働のまちづくり推進懇話会参加者意見等対応一覧

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
1	平岡政子	なんでもかんでも市でやってくれればという気持ちでは駄目であり、以前1か所で開催されていた敬老会を現在は各地区が主となって開催している。このことにより町内会館の活用にも繋がっている。 ★キーワード 「なんでも市でやればいいという気持ちではダメ」 「市で行っていた事業なども各地区が主となって開催している」 「町内会館が活用されている」	47町内会から全て言われてもなかなか対応できない状況になってきている。 町内会同士も繋がってやったり、地域住民と協働というのを実践されてきた。	ご意見を踏まえ、本市の地域特性として、以下のとおりまとめます。 P1 2. 協働推進に関わる本市の地域特性 「従来から町内会館を拠点とし、町内会を中核とした地域コミュニティ活動が活発に行われ、まちづくりの重要な役割を担っています。また、近年、町内会館等において多様な事業が展開されています。」 ※No5 佐藤氏の意見も反映	指針の3.「協働についての基本的な考え方」等において参考とします。
2	平岡政子	行政と町内会（市民）との繋がりが一番大事で、市でできるもの、ここは町内会（市民）がここまではやっていかなくてはならないことを市民に理解してもらうことが大切である。 行政が町内会（市民）がということではなく、繋がりをうまく持っていけばよいのではないかな。 ★キーワード 「行政と町内会（市民）との相互の理解と繋がりが大事」 「市でできるもの、町内会（市民）がここまではやっていかなくてはならないことを市民に理解してもらうことが大切」 「行政と多様な主体間の繋がりをうまく持っていくとよい」	多様な繋がりを現場でも意識されている。	ご意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (2) 気づきと行動につながる、本市の地域性と時代に合った指針の策定 「市民の思いや活動を理解し、まちづくりに関わる様々な主体の気づきと行動につながる実効性のある指針とします。」 ※No9 佐藤氏、No11 村上氏、No28 佐々氏の意見も反映	指針の3.「協働についての基本的な考え方」等において参考とします。
3	平岡政子	ルールというのは相応しくないということからすると、私達からの意見を受けてからタイトルを付けてもらいたいというのが本当のところである。 できるだけ皆さんの意見を出してもらって、そこから持ってきていただくと、よいのではないかなと思う。 ★キーワード 「できるだけ皆さんの意見を出してもらう」	総合計画でルールを作っていくことが定められており、今回事務局側で作成したが、皆様と話し合ったこと、皆様方のまちに対する思いを再度バージョンアップして作り変え、また議論してまいりたい。	ご意見を踏まえ、総合計画においてルール策定を定めた経緯について、以下のとおりまとめます。 P2 3. まちづくりの基本となるルール策定の背景と方向性 「協働のまちづくりのさらなる推進を図るため、議会や総合計画審議会などの様々な議論を経て、平成28年に策定した本市総合計画及び前期基本計画において、協働を推進するための指針、仕組みが必要であるとして、「まちづくりの基本となるルールの策定」を成果目標に掲げ、本市に必要なルールのあり方について検討を進めてきました。」	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。 市としてもルールという文言を使用しない方向で進めたいと考えています。

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
4	平岡政子	市民が読むときに、本当に分かりやすい言葉、誰もが分かりやすい言葉で挙げていただくとよいと思う。	大幅に変えるというよりは、文言の分かりやすさだと思う。 ポイントはポジティブにやるということである。	ご意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (3) わかりやすい指針の策定 「若い世代をはじめ、あらゆる世代の人が読みやすく、多世代が共有できる、わかりやすい指針とします。」 ※No.16 増田氏、No.22 戸嶋氏、No.23 柳山氏、No.28 佐々氏の意見も反映	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。 若い世代をはじめ、あらゆる世代の人が読みやすく、わかりやすい指針とします。
		★キーワード 「誰もが分かりやすい言葉で」			
5	佐藤政悦	昔からの地域と団地の地域は地域性が異なるため隔たりを感じていたが、今は一緒に色々なことをやっている。		ご意見を踏まえ、本市の地域特性として、以下のとおりまとめます。 P1 2. 協働推進に関わる本市の地域特性 「従来から町内会館を拠点とし、町内会を中核とした地域コミュニティ活動が活発に行われ、まちづくりの重要な役割を担っています。また、近年、町内会館等において多様な事業が展開されています。」 ※No.1 平岡氏の意見も反映	指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「地域性は異なるものの、色々な活動を一緒に行っている」			
6	佐藤政悦	高齢化が進み若い方も少ないなど地域を担う後継者がいないことが課題である。		ご意見を踏まえ、市の課題及び現状として捉え、以下のとおりまとめます。 P1 1. まちづくりの課題及び現状 「全国的な少子高齢化により社会を支える仕組みが変わってきています。このことは同時に、地域活力の低下が懸念されることにもつながっています。」 ※No.24 柳山氏の意見も反映	指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「高齢化による地域の担い手不足」			
7	佐藤政悦	かつて町内会で行っていたスポーツなどの文化事業などの行事も少なくなり、地区のまとまりが無くなってきたと感じる。飲み会を通じて地区内の交流を図っている。			指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「地区がまとまる機会の減少」 「懇親会(飲み会)を通して地区内交流」			

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
8	佐藤政悦	これまで各種事業・行事は、市主導で行われてきたが、様々な場面でボランティア団体等が活動している。こういった活動をどのように市が取り込み、発展させていくかが重要である。 ★キーワード 「市民の自主的・自発的な活動(ボランティア団体等の活動)をいかに市が取り込み、発展させるかが重要」		ご意見を踏まえ、指針の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (1) ゆるやかな枠組みとして策定 「義務や権利を明確化することを目的とするものではなく、まちづくりに関わる様々な主体がお互いを尊重しながら、住みよくよりよいまちにしたいという思いを共有し、協働を促進できる、ゆるやかな枠組みとします。」 ※No.16・17 増田氏、No.21 佐々木氏、No.27 佐々氏の意見も反映	指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
9	佐藤政悦	これまで各種事業に参加されてきた方以外の一般市民は分からない部分が多いと思う。こういった方々も取り込んでいく必要があるのではないか。 ★キーワード 「各種事業に参加していない市民を取り込んでいくことが必要」	一般の方々にどのようにして伝えていくかという課題については、色々なアイデアや先進事例もあるので検討できるのではないと思う。	ご意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (2) 気づきと行動につながる、本市の地域性と時代に合った指針の策定 「市民の思いや活動を理解し、まちづくりに関わる様々な主体の気づきと行動につながる実効性のある指針とします。」 ※No.2 平岡氏、No.11 村上氏、No.28 佐々氏の意見も反映	指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
10	佐藤政悦	協働という視点の中で、行政や我々が対等に話ができるような仕組みが必要になってくるのではないかな。 ★キーワード 「市民と行政が対等に話ができる仕組みが必要」 「市民主体で行う仕組みが必要」	無理に進めると行政カラーとなるので、市民主体でやる仕組みが必要である。		指針の3.「協働についての基本的な考え方」等において参考とします。
11	村上幸枝	最初は行政を巻き込もうなどとは考えていなかったが、市のプロジェクトに関わり行政ができないことを担い、そこに住民が参加や協力する場を繋ぐことなどを通じて、市との連携を感じた。 ★キーワード 「行政ができないことを担い、住民の協力の場を繋ぐことを通じて、行政との連携を感じた」 「気づいて始めていたら協働になっていた」	自分たちで課題に対して活動を展開して、結果として協働となっていた。気づいた人が始めていたら協働になっていき、課題が出てきて、それに対してルールが作られるのではないかな。	ご意見と座長の意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (2) 気づきと行動につながる、本市の地域性と時代に合った指針の策定 「市民の思いや活動を理解し、まちづくりに関わる様々な主体の気づきと行動につながる実効性のある指針とします。」 ※No.2 平岡氏、No.9 佐藤氏、No.28 佐々氏の意見も反映	指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。

No	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
12	村上幸枝	活動を継続していく中で様々な課題や問題が出るが、そこを一緒にまとめたり考えたりする場があるとよい。			指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
		★キーワード 「活動を継続していくための課題を一緒に考える場が必要」			
13	平間由美子	ボランティアで被災地から越してこられた方との交流を行っているが、年に数回でも皆さんと顔を合わせる機会が大切である。健康フェスティバルなど、昔はやっていて今はやっていないこと、皆が参加できるようなものを復活できないかと思う。	これまでは行政に参加・参画でやってきたことを、行政もマンパワーなどの問題でできなくなってきている。市民発で実施していくということもあるのではないかな。		指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「皆が参加できる事業を復活できないか」 「行政のマンパワーの問題があり、市民発で実施していくことも必要」			
14	増田恵美子	4ページの背景の「市が十分に財源と職員を確保し、全ての課題やニーズを担っていくことが難しくなってきた」は、「一方で課題を地域住民自らが解決しようとする動きも出てきている」などの対比などを書く、押し付け感などネガティブに捉えられなくてよいのではないかな。背景の一つ目はとてもポジティブで、とても良い文言だと思う。	協働というのは、一歩間違えると自治体が行ききれなくなったことを住民へという、かつての運営が思い起こされる。行政が担うようになったのは高度成長期だと思うが、それ以前のことを想起すると、元々自分たちが行っていたことであり、それが活発化している。まちづくりはポジティブにやった方がよい。市民の機運の高まりに加え、活動も増えていることについても記述があるとよい。	ご意見を踏まえ、前回資料1、P4の表現を見直し、以下のとおりまとめます。 P1 1. まちづくりの課題及び現状 「行政が十分に財源と職員を確保し、全ての課題やニーズを担っていくことが難しくなっています。一方、長年にわたり行われている地域の課題を解決する市民の活動は、広がり厚みを増してきています。」 座長の意見を踏まえ、前回資料1、P14の表現を見直し、以下のとおりまとめます。 P2 4. 指針の目的と役割 「市制移行を機に、協働の手法を再認識して、市民の思いや活動を活かしながら、よりよいまちづくりを進めていこうという機運や取組みが従来にも増して高まってきています。」	指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「まちづくりはポジティブに」			

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
15	増田恵美子	市と良い関係を築くことができた理由として、ルールにも関わってくると思うが、協働を進めていく上でのお互いに配慮すること、文言にしにくいこの部分がとても重要であると感じている。 行政と連携する際にも、会議等にも参加し自分たちを知ってもらった上で、市の施策や部署との関連性を考慮しながら細やかなステップを踏むこと、お互いに気づかいが必要だと思う。明文化は難しいが、そういったことを多くの方が共感できるようなルールであるとよい。	お互いに配慮・リスペクトすることは、行政だけではなく他の団体間同士でも多くの場面であることであり、明文化できるとよい。	ご意見と座長の意見を踏まえ、協働の基本的な考え方として、指針の項目の一つとして、以下のとおりまとめます。 P3 6. 指針の構成 3. 協働についての基本的な考え方 (4) 協働を進めるうえでお互いに配慮すること	指針の3.「協働についての基本的な考え方」等において参考とします。 指針の中で「お互いに配慮すること」の明文化を検討します。
		★キーワード 「市と良い関係を築く」 「お互いの配慮、気づかいが必要」 「多くの人が共感できるようなルールであるとよい」			
16	増田恵美子	背景の二つ目の文章は、もっとくだけた感じがよい。 「まちづくりを担う」というのは固く感じるため、「もっと良いまちにしたいと願う皆の思いをまとめていこう」といった、誰が読んでも、そうだよねと思える文章がよい。	「まちづくりを担う」というと重い感じがするが、個人ボランティアなど、自分はまちづくりを担うという意識は無く参加しているのだという意見もあり、それをどう巻き込むかということが重要なポイントである。 誰向けに書くかということになるが、大学生、高校生などにも分かるような文章に変え、共感できるような文言でハードルを下げる。	ご意見と座長の意見を踏まえ、前回資料1、P14の表現を見直し、以下のとおりまとめます。 P2 4. 指針の目的と役割 「このような中、まちづくりに関わる様々な主体(市民や団体、企業、行政など)が、よりよいまちにしたいという思いを一つにし、共に力を合わせ、まちづくりに取り組むための考え方や方向性を具体的に示すものが必要となっておりま す。」 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (1) ゆるやかな枠組みとして策定 「義務や権利を明確化することを目的とするものではなく、まちづくりに関わる様々な主体がお互いを尊重しながら、住みよくよりよいまちにしたいという思いを共有し、協働を促進できる、ゆるやかな枠組みとします。」 ※No.8 佐藤氏、No.17 増田氏、No.21 佐々木氏、No.27 佐々氏の意見も反映 (3) わかりやすい指針の策定 「若い世代をはじめ、あらゆる世代の人が読みやすく、多世代が共有できる、わかりやすい指針とします。」 ※No.4 平岡氏、No.22 戸嶋氏、No.23 柳山氏、No.28 佐々氏の意見も反映	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。
		★キーワード 「誰が読んでもそうだと思う文章がよい」 「まちづくりを担うという意識は無く参加している人(個人ボランティアなど)をどう巻き込むかがポイント」			

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
17	増田恵美子	緩やかな枠組みづくりの、「他の自治体の事例から指針や方針により考え方や方向性を示すことで」の部分の意味が少し分かりにくいと思う。	他の自治体の例より、市内の事例を尊重してよいのではないかと。 「指針や方針により考え方や方向性を示すことで」の部分が「緩やかな枠組み」とどう繋がるのかについては、お互いを尊重しあうといったことをキーワードとして盛り込む方がわかりやすいのではないかと。	ご意見と座長の意見を踏まえ、前回資料1、P16の表現を見直し、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (1) ゆるやかな枠組みとして策定 「義務や権利を明確化することを目的とするものではなく、まちづくりに関わる様々な主体がお互いを尊重しながら、住みよくよりよいまちにしたいという思いを共有し、協働を促進できる、ゆるやかな枠組みとします。」 ※No.8 佐藤氏、No.16 増田氏、No.21 佐々木氏、No.27 佐々氏の意見も反映	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。
18	増田恵美子	定義の「異なる複数の主体が互いに共有可能な目標」の「共有可能な目標」ということがとても大事である。住みたくなるまち日本一の4つの方針を市民側も共有することで、自分たちの活動とのリンクがしやすくなるのではないかと。 ★キーワード 「共有可能な目標が大事」 「総合計画の方針を市民も共有すると活動とのリンクがしやすい」 「地域課題は市民の方がよく分かっている」 「行政課題を市民に示すことにより協働が進んでいく」	行政課題と地域課題があるというのを前提に、地域課題は皆さんの方がよく分かっているが、行政課題というのが案外分らない。 そこを示していくことによって、皆さんとの協働が進んでいくのではないかと。	ご意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (2) 気づきと行動につながる、本市の地域性と時代に合った指針の策定 「また、本市の地域性と時代に合った指針の策定にあたり、総合計画と整合性を図り一体的な取組みができるものとします。」	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。
19	佐々木吉晴	市の事業への参加から自主的な活動に繋がり、そこから更に展開して地域で季節ごとのイベントの実施やお酒づくりなど地元企業との連携に広がっていった。 ★キーワード 「市事業への参加から自主的な活動が展開」 「地元企業との連携により活動に広がりが出た」			指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
20	佐々木吉晴	市の施設（西成田コミュニティセンター）を使用する際には使用料の減免を受けている。			指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
		★キーワード 「市の施設を利用する際の使用料の減免」			
21	佐々木吉晴	自分たちだけではできないことは、地域の高齢者の知恵や若い方の手伝いをいただくなど、市外の方も巻き込んで楽しみながら活動している。	地域のことを優先的に置きながら、多様な人たちを巻き込んで展開している。その意味では緩やかな枠組みの方向性にも絡んでくる。	ご意見と座長の意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (1) ゆるやかな枠組みとして策定 「義務や権利を明確化することを目的とするものではなく、まちづくりに関わる様々な主体がお互いを尊重しながら、住みよくよりよいまちにしたいという思いを共有し、協働を促進できる、ゆるやかな枠組みとします。」 ※No8 佐藤氏、No16・17 増田氏、No27 佐々氏の意見も反映	指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「多様な人を巻き込んで楽しみながら」			
22	戸嶋さち	若い人の声も聴きながら、子どもたちの場づくりを行っている。	行政や学校、施設ができない課題に地域で取り組んでいる。 自分たちの課題のこの部分を相談したいという場が必要。	ご意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (3) わかりやすい指針の策定 「若い世代をはじめ、あらゆる世代の人が読みやすく、多世代が共有できる、わかりやすい指針とします。」 ※No4 平岡氏、No16 増田氏、No23 柳山氏、No28 佐々氏の意見も反映	指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
		★キーワード 「若い人の声も聴きながら」			
23	柳山仁志	自分たちと、子・孫世代など世代間の関わり方や繋がり方が課題である。	多世代共創を考えていくということが富谷で動いている事例である。	ご意見と座長の意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (3) わかりやすい指針の策定 「若い世代をはじめ、あらゆる世代の人が読みやすく、多世代が共有できる、わかりやすい指針とします。」 ※No4 平岡氏、No16 増田氏、No22 戸嶋氏、No28 佐々氏の意見も反映	指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「世代間の繋がり方が課題」 「多世代共創」			

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
24	柳山仁志	町内会を諸事情により脱会する世帯が多くなっていること。町内会活動など地域の担い手不足が課題となっている。	現実を踏まえ、アプローチを分かりやすくする。	ご意見を踏まえ、市の課題及び現状として、以下のとおりまとめます。 P1 1. まちづくりの課題及び現状 「全国的な少子高齢化により社会を支える仕組みが変わってきています。このことは同時に、地域活力の低下が懸念されることにもつながっています。」 ※No.6 佐藤氏の意見も反映	指針の2.「協働についての現状と課題」等において参考とします。
		★キーワード 「町内会脱会世帯の増加」 「町内会活動など地域の担い手不足」			
25	柳山仁志	パブリックコメントやフォーラム、市民懇談会などにより市民と繋がりを持つという意気込みを感じる。			指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
		★キーワード 「パブリックコメントなどにより市民と繋がろうという市の意気込みを感じる」			
26	佐々利春	台風19号災害時に社会福祉協議会で情報を把握していた団体に声掛けしたところすぐに動いていただき、繋ぐことができた。 地域のキーパーソンを見つけて広げていくことが大切であり、市民をお願いをするのではなく共に歩む姿勢が大事だと思う。	全国的な災害の場合、東日本大震災のように他県などからということにはいかず、町内でどのように対応するかの事例は貴重である。		指針の4.「協働の推進に向けて」等において参考とします。
		★キーワード 「地域のキーパーソンを見つけ広げることが大切」 「共に歩む姿勢が大事」			
27	佐々利春	座長から参加や参画には強制的な感じとの表現があったが、制約やしがらみ、窮屈など、強制的な参加に億劫さを感じ、団体に属さないでボランティア活動をする人が増えている。	皆さんも、方向性の一番目「ゆるやかな枠組みづくり」がポイントだと思われるのではないかな。	ご意見と座長の意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (1) ゆるやかな枠組みとして策定 「義務や権利を明確化することを目的とするものではなく、まちづくりに関わる様々な主体がお互いを尊重しながら、住みよくよりよいまちにしたいという思いを共有し、協働を促進できる、ゆるやかな枠組みとします。」 ※No.8 佐藤氏、No.16・17 増田氏、No.21 佐々木氏の意見も反映	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。
		★キーワード 「強制的な参加が億劫と感じ、団体に属さないで活動する人が増えている」			

No.	参加者名 (敬称略)	意見要旨	座長意見	市の考え	
				素案 (今年度策定)	指針 (次年度の審議会で 検討)
28	佐々利春	ルールといった決められたルール以外は行けないということではなく、触れ合い、感じたことを率直に思いとして受け止め、共感し合うというようなことが、枠組みに入れられるとよい。 ハードルを下げるのが、指針や方向性を示す際には大事になると思う。	富谷らしい協働を考えるときに、現状を踏まえつつ、どういうものが必要かということに繋がってくると思う。	ご意見を踏まえ、指針策定の基本的な考え方として、素案(案)において、以下のとおりまとめます。 P3 5. 指針策定の基本的な考え方 (2) 気づきと行動につながる、本市の地域性と時代に合った指針の策定 <u>「市民の思いや活動を理解し、まちづくりに関わる様々な主体の気づきと行動につながる実効性のある指針とします。」</u> ※No2 平岡氏、No9 佐藤氏、No11 村上氏の意見も反映 (3) わかりやすい指針の策定 <u>「若い世代をはじめ、あらゆる世代の人が読みやすく、多世代が共有できる、わかりやすい指針とします。」</u> ※No4 平岡氏、No16 増田氏、No22 戸嶋氏、No23 柳山氏の意見も反映	指針全般 次年度の具体的な指針の検討において参考とします。
		★キーワード 「思いを受け止め共感し合う」 「ハードルを下げ指針や方向性を示すことが大事」			

【その他のご意見】

29	佐藤政悦	生産者として市で進めているスイーツ関係に関わっているが、市の一方的な目線でなく生産者やスイーツ屋さんなど色々な方を巻き込んでいけば、皆に親しまれるような事業となるのではないかな。			担当部署に情報提供します。
30	戸嶋さち	働きたいが、働かないと子どもを保育所に預けられず、働いてからの保育所は不便だという声をたくさん聞いている。			担当部署に情報提供します。